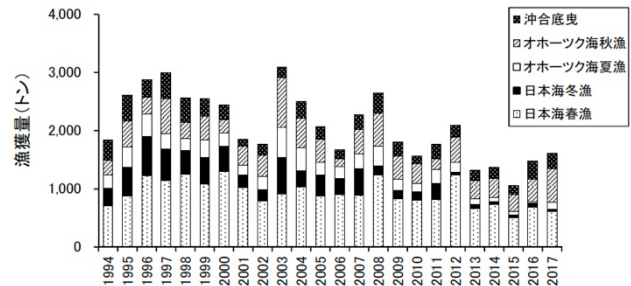


《マガレイの漁況予測》網走水産試験場では、稚内水産試験場と共同で調査結果をまとめマガレイの漁況予測を行っています。オホーツク海域の夏漁（5～8月）は3歳魚が主体で4歳魚も多く漁獲される傾向があり、主体の3歳魚（2015年級群）および4歳魚（2014年級群）の資源量から漁獲量は前年並みと予測されます。また、秋漁（9～12月）

では3歳魚を主体に、漁獲サイズに成長した2歳魚も加入してきます。3歳魚は前年並ですが、2歳魚（2016年級群）は前年よりかなり増加すると予測され、秋漁は増加すると思われます。図1は1994年から2017年までのマガレイ漁獲量の推移を示しています。このようなマガレイの漁獲概況の他、漁況予測方法等の詳しい情報はホームページ※1でご覧いただけます。



年度(4月1日～翌年3月31日)
図1 マガレイ漁獲量の推移

《オホーツク海海域の海面水温》4月中は比較的暖かく、過ごしやすかったのですが、ゴールデンウィーク期間中は気温が下がり天候も思わしくありませんでした。おかげで桜を長く楽しむことができましたが、5月中旬には寒気が入り石北峠での降雪の様子が報道されていました。今年は例年よりも気候が不順なように感じます。はたして海の方はどうだったのか？ 気になるところですので、気象庁のホームページに載っている北海道周辺海域の海面水温平年差分布図からオホーツク海域部分を切り出して並べてみました（図2）。すると、気温の下がっていた4月下旬～5月上旬にかけても岸よりは例年よりも水温が高かったように見えます。オホーツク海域については稚内水試の北洋丸（4、5、7、11月）と釧路水試の北辰丸（9月）が定期観測をしており、中央水試海洋環境グループが取りまとめて海況速報をホームページで報告しています※2。これによると、「岸に沿って高温・高塩分な宗谷暖流が流れており、水温前線より岸側の50～100m深水温は例年より2～3℃高めで、宗谷暖流の勢力は例年より強めと考えられる」との事でした。どうやら気温よりも海流の影響が大きいようです。宗谷暖流が強めということは、あまり餌料環境は良くないように感じられますが、一方で、「ヌタ」の原因藻である大型珪藻コスキノディスクス・ワイラシィが日本海沿岸に発生している情報もあります※3。この珪藻は2013年（H25）に大発生し、ホタテガイのグリコーゲン含量が非常に高くなった要因となりました。今春のこのような環境変化が水産生物の生育に繋がり漁業資源に良い影響がある事を期待します。

（網走水試 佐々木）

※1：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/abashiri/index.html>



※2：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyou/suhou/index.html>

※3：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyou/topics.html>

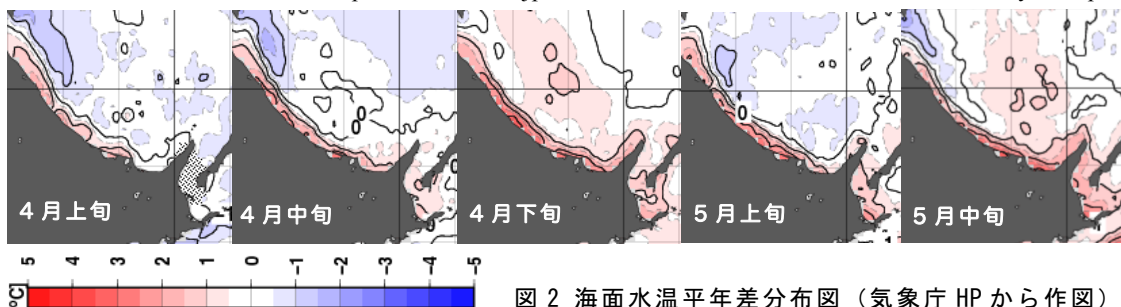


図2 海面水温平年差分布図（気象庁HPから作図）